

単元内自由進度学習に関するQ&A

R5.12.22

11月11日（土）の保護者へのご参加ありがとうございました。アンケートにおいて寄せられた質問に回答させていただきます。

Q、実際にどういう授業をしているのか、見学したい。いつでも親が授業を参観できるようにしていただきたい。

A、事前にご連絡いただければ、授業見学をしていただくことは可能です。1月18日（木）の新入生保護者説明会の際も、授業公開を予定しています。

Q、本取組のデメリットと採用した回避/軽減対策は？

A、単元内自由進度学習によって取り残されてしまう生徒が出るのではないかとご懸念する声があります。本取組では生徒が主体となって学習を進めていくため、学びが一時、停滞するように見える場合があります。しかし、一斉授業の形態を取っていた際、内容が十分理解できていない状態にも関わらず、授業だけが先に進んでしまい、大きく取り残されてしまったという事例は、少なからず存在していました。

この両者の違いは、取り残しが顕在化するか否かにあると考えます。私たちはこの「生徒の困り感」が進度や授業内での取り組みの姿に現れることで、個に応じた支援に繋がれることを見込んでいます。今後生徒アンケート等を通して状態を把握し、それを克服できるよう、不十分な点について研究を進めてまいります。

Q、各教科への導入状況・進行方法は？

A、本校で進めている単元内自由進度学習は、教科や単元の特性、学年・生徒の実態に応じて行うことを基本としているため、教科によって導入状況や進行方法は様々です。そのため、単元内自由進度学習を行う単元とそうでない単元がある場合や、生徒の活動（発散）と一斉授業（収束）のバランスが単元や授業内容によって大きく異なる場合もあります。また、各教科の進行方法については、各教科のガイダンスで使用されているプリントや説明をご参照ください。今後も教科や単元の特性に応じて導入してまいります。

Q、本取組の目的など、学習方法自体の生徒への説明とその理解度は？本取組のやり方を教える、考えさせる時間は授業とは別に設けているか？

A、学習の進め方をレクチャーする“ガイダンス”の時間を単元の初めに必ず設けています。また、本取組を進めるにつれ、生徒の学習方法が安定してきました。理解度については、アンケート等を活用して確認してまいります。

Q、目標の設定と各生徒ごとの進捗の確認方法は？

A、各単元ごとに振り返りシートや進度表（単元構成シート）を活用し、教員が学習進度を確認しつつ、机間指導等により生徒個々にアドバイスをを行います。

Q、時間内に習得できなかった場合の学習のフォロー方法

A、各単元の中で最低限の目安を設定し、ワーク等の演習課題や小課題を設けて、目安への到達を促します。また、単元の終盤にあえて一斉形式の授業を設定し、教員主導でまとめを行う中で、生徒自身で学んだことを振り返り、学びの自己評価を行う場面を設定するなどしています。また、放課後のフォローについても検討しています。

Q、習得度の確認を定期テスト以外で行っているか。

A、例えば、単元ごとの小テストや提出された課題の状況で習得を確認します。

Q、学習指導要領のとおり行っている学校と差が生じるなど、他校よりも低い評定となることで、高校受験のビハインドが生じることはないのか。

A、本校も学習指導要領に則って教育活動を行っています。評定は全市ではなく、学校ごとに行うものであり、本取組をすることで、他校よりも低い評定になるという因果関係はありません。

Q、本取組の導入にあたり、相談した人や機関（教育委員会等）は？

A、さいたま市教育委員会と協議しながら取り組みを進めてまいりました。また、学校全体かつ複数教科で取り組んだ例は少ない一方、1教科内での実践は複数報告されているため、先行事例や大学等で行われている研究の動向を踏まえながら、様々な手法を取り入れています。

Q、本取組の導入にあたり、教員に対し行った育成内容と時間は？

A、令和3年度からさいたま市教育委員会の指導主事による訪問指導を受け、「ICTを効果的に活用した個別最適な学びと協同的な学び」に関する研修を校内で実施してきました。月に一度の教科部会と毎週の研究推進委員会を行い、毎月4~5時間程度、全教職員が本取り組みに関わる研修活動（検証と協議）を進めています。また、他校や市外の研究発表会に職員を派遣するなどして、研鑽の機会を確保してきました。

Q、本取組の導入にあたり、各教員から出た課題（学校内での討議内容）と対策は？

A、①「誰一人取り残さない」ための授業方法の工夫 ②事前の教材準備

上記の2点が挙げられました。

①について（対策）

- ・T2やアシスタントティーチャーを活用する。
- ・細かな机間指導とアドバイスが可能な環境を整備する。
- ・生徒個々の習熟度を把握し、それに対して最適な学習方法への道筋を示す。

②について（対策）

- ・長期休業中の課題として繁忙期でない時期に教材作成・研究の時間を確保する。
- ・教科や単元の特性に応じて、いろいろな学習プランを教材化する。
- ・定期的に行われる教科部会等で継続して討議を重ねる。

なお、①について、校内に放課後の学習場所を設け、相談できる体制を整えられないかと考えています。

Q、従来の学習方法と大きく異なるはずなのに、なぜ保護者に事後報告だったのか。

A、従来の方法と大きく異なるという認識はありません。これまでの実践をもとに従来の方法を

発展させていると考えています。説明を求める声が学校に届き、その後に説明をする準備を進めました。

Q、どうして年度中に急ぎ導入したのか。

A、本取組の特性上、4月から実施するのは非常に難しいと考えています。学級での学習ルールの徹底がされてから、本取組を徐々に始めていくため、年度途中になりました。

Q、先生方に対し、本取組に対する理解や、導入することへの納得は得られているのか。

A、市からの研究委嘱を受けていますので、全教職員で研究を進めなければなりません。教職員の共通理解や共通認識を持つ研修を3年間行ってきました。

Q、実際に先生方が授業を行うための研修やフォロー体制は十分に確保できているのか。

A、授業の空き時間に授業を見合ったり、教科で情報交換をしたりという時間を確保してきました。研修等のフォロー体制については、今後さいたま市教育委員会と協議しながら進めてまいりたいと思います。

Q、見本がない南中の先生方はどうされているのか。

A、教員自身の研修も大切ですし、先行実践や書籍、市の指導主事からの助言をもとに授業を考え組み立てていくこともしています。また、学校内でお互いに授業を見合い、意見を交換するということを行っています。

Q、本取組の効果の測り方、および測るタイミングは？

A、3学期中に生徒を対象とした単元内自由進度学習に関わるアンケート調査を行い、1～3学期の生徒による授業評価アンケート（学びの指標）も合わせて、よりよいあり方を考えていきます。

Q、本取組を実行する中で把握した課題と実行した対策は？

A、教員については、授業を始める際の準備量が増えるため、その時間をどう捻出するかという課題があります。対策として、長期休業や部活動停止期間を活用することで時間を捻出しました。

生徒については、声を挙げる機会や学び合いを行う中で、一部生徒への質問の集中といった課題が挙げられます。その課題の解決については、協議を続けているところです。

Q、本取組の効果が薄い（もしくはない）場合の対応を教えてください。

A、何を“効果”とするか、またその効果を考えるスパンも様々であると考えます。3学期に行うアンケート結果をもとに、今後の指導方法の改善を図ります。

Q、校長が変わった場合、本取組をどうするのか。

A、本取組は、文部科学省から指示されている「個別最適な学びと協働的な学び」に対する指導方法の一つです。したがって、本取組（または類する取組）は、評価と改善を図りながら今後も継続していきます。

Q、先生たちは、こんな教育をやりたくて教師になったのでしょうか。

A、授業に対する考え方の違いはあるかと思いますが、先生方が子どもたちのために少しでも効果のある授業をし、力をつけたいという思いは同じです。先生方は、日々授業力を高めるために、様々な工夫をしていることは間違いありません。教師になった理由は様々かと思いますが、授業を充実させるため、研究を続けています。

Q、本取組の効果に対する検証や評価はどのように行われるのか。

A、検証・評価として3学期に生徒を対象にアンケートを行う予定です。また、上でも述べたように、短いスパン、長いスパン両面で捉える必要があります。

Q、検証結果によって、従来の授業方法に戻す可能性はあるのか。

A、単元内自由進度学習は従来の授業方法（一斉教授型の授業）のよい点も活かした授業方法です。学びを全体でまとめていく場面（収束）と個々に深めていく場面（発散）のバランスについてはよりよい方策を求めて調整をしていきます。

Q、来年度以降の計画は？

A、授業計画を生徒や保護者の方々に示すことができるように準備してまいります。

Q、本取組の成果（数値化されたもの）を示してほしい

Q、アンケート結果を悪いものを含めすべて公表してほしい

A、3学期に生徒を対象に行うアンケートを公表する予定です。

Q、もともとの学力との関係性を分析してほしい。

A、3学期に生徒を対象に行うアンケートを、昨年の成績等とクロス集計することを検討します。

Q、本取組について、他校もしくは専門家の意見が聞きたい。

A、他校の先生方にも授業を公開し、ご意見をいただいております。可能な範囲で公表していきたいと考えております。